

日本医療秘書学会 第14回学術大会

【メインテーマ】

地域に根ざした医療機関と医療秘書 ～地域医療の統合を目指して～

【趣旨】

わが国は高齢者人口の地域差や医療・介護需要の最大化など大きな課題に直面しています。そこで、地域の医療の実情に応じた方向性を定めていくために、2014年、医療介護総合確保推進法によって都道府県は地域医療の策定を義務化されました。医療資源の効率的活用や、医療・介護サービス体制の構築が目的です。

医療機関は地域において良質な医療・介護サービスを効率的に継続的に提供する施策が必要となっています。たとえば、地域に根ざしいつでも地域住民を受け入れることのできる医療機関であることや、あるいは大震災発生時の地域の医療活動の実現と再構築、さらには病診・病病連携を中心とした地域医療の統合は急務となっています。

医療秘書（含・医療系事務職員）は、そのような医療機関の将来構想・環境変化を理解し、チーム医療の一員として専門的知識と高度なスキルをもって職務を遂行することが求められます。

以上の状況認識に立ち、本学術大会のメインテーマとして「地域に根ざした医療機関と医療秘書～地域医療の統合を目指して～」を設定しました。

本学術大会では、理論研究をはじめ医療現場での実践、教育活動の実践など積極的な発表を歓迎します。

なお、メインテーマの趣旨は上述のとおりですが、一般演題（口頭発表およびポスター発表）の発表内容に制約を課すものではありません。

本学術大会が多くの発表と参加者によって、広く深い議論が展開されることを期待します。

平成28年10月吉日

第14回学術大会
大会委員長 中村 健壽
(静岡県立大学名誉教授)